

【別紙様式2】

千葉県県土整備部所管公共事業事前評価自己評価調書

事業名	九十九里浜侵食対策
担当課名	河川整備課

1. 事業の概要

(1) 事業の目的	本事業は、海岸侵食を抑制・防止するとともに、幅 40m の砂浜を確保することを目的とし、養浜（人工的な砂の投入）及び施設整備（ヘッドランド、離岸堤）を実施するものである。		
(2) 事業の内容			
①事業期間・時期	事業期間：令和3～31年度		
②事業規模	ヘッドランド：9基 離岸堤：7基 養浜：9万m ³ /年		
③事業費	330億円		
④事業位置	九十九里浜（飯岡漁港から太東漁港）		
(3) 指標			
①事業目的	②指標	③現状値	④目標値
海岸侵食対策	砂浜幅	0～40m程度	幅 40m の砂浜を確保

2. 県が実施する必要性

(1) 現状及び課題	【現状】 国土保全の観点から九十九里浜の土砂の供給源であった屏風ヶ浦と太東崎に消波堤を整備した結果、九十九里浜に供給されていた土砂が減り、九十九里浜の侵食が進んでいた。 この現状から、土砂の供給源に近く、侵食が著しく進んだ九十九里浜の北端の飯岡海岸と南端の一宮海岸において、砂浜の砂を留めるために離岸堤やヘッドランドの整備を進め、南九十九里では、養浜も併せて実施した。それに伴い、ヘッドランド設置区間で砂浜が回復してきている。 【課題】 侵食対策を実施した区間以外の沿岸下手側の海岸で沿岸漂砂が減少したため、事業区間以外でも侵食が拡大している。これに伴い新たな海岸侵食対策が必要となっている。
(2) 上位政策及び 全体計画との関連	九十九里浜全域を対象とした侵食対策を検討するため、学識経験者、沿岸9市町村長、漁業関係者などで構成する「九十九里浜侵食対策検討会議」を全4回開催（H29～H31）し、これを踏まえ、令和2年7月に「九十九里浜侵食対策計画」を策定した。 本事業は、九十九里浜侵食対策計画に対応するものである。
(3) 優先度及び適時性	【優先度】 海岸侵食が進行した場合、国土の消失、防護機能の低下による浸水被害の発生、海水浴等の海岸利用や漁業への影響が懸念されるため、本事業の優先順位は高い。

	【適時性】 砂浜が回復・維持されている地域では、年間で数十万人が海水浴やイベントなどで砂浜を利用している。また、県のブランド水産物認定品である「九十九里地はまぐり」の漁獲もあり、漁業活動の場としても利用されている。 他に、散策、釣り等にも利用され、砂浜海岸として多様な役割を担っていることから、県民・地元民の関心も高く、早急な対策が求められている。
--	--

3. 経済的・社会的効果

【経済的効果】 農林水産省・国土交通省のマニュアルに基づく費用便益分析の結果、費用便益比(B/C)は1.27であり、便益が費用を上回っている。 【社会的効果】 ①砂浜の回復・維持により、海水浴場の開設、砂浜でのイベントの開催等の効果が見込まれる。 ②ハマグリ等の生物の生息環境の保全に伴う漁業の継続的な実施効果が見込まれる。 ③海岸侵食による国土消失の防止、浸水被害の軽減が見込まれる。 ④九十九里浜に対する県民の関心・癒し効果が見込まれる。
--

4. 財政的負担等の見通し

当該事業は、社会資本整備総合交付金事業を活用して事業化を図る予定である。(事業費の50%分が国費) 事業着手後は、養浜材の確保方法、最新技術の活用などを検討し、コスト縮減に取り組む。

5. 環境に与える影響

ヘッドランドや離岸堤といった人工物は、海岸景観やレクリエーション利用などに影響を与えることが考えられる。一方で砂浜を回復することで、ハマグリやハマヒルガオなどの動植物の生息環境、ウミガメの産卵場の保全といった生物環境へ好影響を与える。 また、海岸を利用する人々へ癒し効果をもたらすなど、利用環境の向上にも寄与すると考えられる。

6. 総合的な評価

本事業は、事業の投資効果(費用便益比1.27)が見込めるとともに、事業の実施により砂浜の回復が期待でき、防護・環境・利用の面で効果が得られるため、事業に着手する。 また、九十九里沿岸の住民も「素晴らしい景観」や「豊かな漁場環境」が後世へ継承されることに期待するなど地元の関心が高く、事業の早期実施が望まれている。
--

【別紙様式 3】

